

令和5（2023）年度
自己点検・評価報告書
（抜粋）

鎌倉女子大学幼稚部

第2章 幼稚部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の園運営を行っているか。
2023年度の 取組目標	・すみれクラス、たんぽぽクラスの子どもたちと園児が、互いに成長しあえるような環境を作り、実践していく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	・それぞれに、前週の金曜日に週案を作成して教職員に配付し、その内容をもとに、朝の打ち合わせを必ず行なったことで、より良い環境を考えあったり、保育内容の調整をしあったりして、互いに成長しあえるような環境を作り、実践することができた。 ・より良い環境作りのために、新たな教材、教具を全教職員で考え、揃えることができた。
今後の課題	・満3歳児の受け入れに対応し、職員配置や、どの場所でどのように保育をするかなど、より良い保育体制や環境作りについて、全教職員で考え、実践していく必要がある。
2024年度の 取組目標	・親子の未就園児クラスや満3歳児クラスの子どもたちと、園児達とのつながりをより良いものとするために、保育内容、環境をどのようにするか、全教職員で学びあい、実践していく。

1-②	・幼稚部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。
2023年度の 取組目標	・幼稚部の教育が、より良いものとなるように、室内外の環境を改めて見直し、互いに育ちあう環境を作る。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	・これまでの遊具や用具を定期的に点検して整備したり、新たに必要な物はすぐに揃えたりして、より良い環境作りをすることができた。 ・子どもの発達を促すために、どのような環境が必要かについての研修を、どの教職員も積極的に受けて報告しあい、互いに学びあうようにした。そのため、教職員の環境作りの意識がより高まり、互いに育ちあう環境作りができた。
今後の課題	・夏期の暑さが年々増していくことが予想されるため、園庭での保育で必要とされる暑さ対策の充実とともに、室内での保育環境を、どのように充実させていくかの対策も、同時に考えていく必要がある。

2024年度の 取組目標	・室内での保育環境を充実させるとともに、夏期においては、暑さ対策をした上で、どのように戸外での保育を充実させていくか検討する。園庭だけでなく、併設校の施設や地域の環境も含めて考え、適切に取り入れていく。
-----------------	---

2. 園児の受け入れ

2-①	・幼稚園の教育活動について、説明会の実施、園案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、園児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
2023年度の取組目標	・地域の方に幼稚園を公開するような機会（園庭開放、子育て相談会、行事公開など）を、全教職員で協力し合って作るようにし、可能なことから、積極的に実施していく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	・コロナ禍が収束し、園庭開放やみどり祭の行事公開などを実施することができ、参加者にも大変好評だった。園庭開放時の来園者とは、気軽に子育ての相談をうけられるよう、関係性を築くことができた。
今後の課題	・今後は、運動会などの公開行事を更に増やし、園庭開放の広報も更に進めていく必要がある。
資料	【資料2-1】公開行事参加者数 【資料2-2】見学会参加世帯数 【資料2-3】説明会参加世帯数 【資料2-4】説明会参加世帯数推移 【資料2-5】入園案内配布数 【資料2-6】月別ホームページアクセス数 【資料2-7】ホームページアクセス数推移
2024年度の取組目標	・地域の方に気軽に足を運んでいただく取り組みを、全教職員で考え、広報も適切に行い、実施していく。

2-②	・入園検定を公正かつ適切に行っているとともに、入園定員及び収容定員に沿って在籍園児を適切に確保しているか。
2023年度の取組目標	・少子化に備え、定員を確保するためにできることを、全教職員で話し合い、工夫し、実践していく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	・本年度は、例年より入園児数は少なかったが、他の園の状況を見ても、かなり厳しい様子であった。その中であっては、多くの方に選ばれたのではないかと思う。
今後の課題	・今後は、更に少子化が進んでいくことが予想されるため、多くの方から幼稚園が選ばられるための方法を、様々な視点で考えていく必要がある。

資料	【資料2-8】 志願者数及び合格者数 【資料2-9】 入園関連スケジュール 【資料2-10】 たんぽぽクラス入会関連スケジュール
2024年度の 取組目標	・入園希望者を増やすために、園バスの運行ルート、給食、課外教室の数など、様々な視点で十分に検討し、可能な限り、できることを増やしていく。

2-③	・幼稚部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
2023年度の 取組目標	・引き続き幼稚部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。 ・募集人員充足に向けて、見学会「ようこそその会」や公開行事・説明会等の運営支援や、電話・窓口等での入園希望者対応の充実を図る。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会「ようこそその会」における申込受付や駐車場案内等の運営支援を行い、見学会参加者への対応を行った。 ・幼稚部みどり祭や運動会は、これまでどおり学年ごとに入場時間の設定を行って実施した。外部への公開も時間の制限を設定し行われ、運営補助を行った。行事の様子は幼稚部のホームページで紹介され、広報の一つとして行われている。 ・各種問い合わせに関する電話対応についても丁寧な対応を心掛け、幼稚部の好感度を上げる様尽力した。 ・募集要項については、入園希望者にとって内容が分かりやすくなる様な表現を取り入れ工夫した。 ・募集活動の一つとして、通園バスのルートの変更や停車場所の見直しを随時行っており、これまで同様順調に運営されている。
今後の課題	・併設校広報の中心となる初等・中等教育統括部長や幼稚部の管理者との連携を密にし、幼稚部の募集活動の支援充実に努めたい。
2024年度の 取組目標	・引き続き幼稚部の募集活動補佐や支援の更なる充実を行う。 ・募集人員充足に向けて、見学会「ようこそその会」や公開行事・説明会等の運営支援や、電話・窓口等での入園希望者対応の充実を図る。

3. 教育活動

3-①	・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
2023年度の取組目標	・すみれクラス、たんぽぽクラスから、年長組に至るまでの子どもの育ちがスムーズにいくよう、預かり保育も含めて、互いの保育活動の内容を教職員間で共有できるようにする。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・未就園児クラスも同じ施設内で保育をするようになったことで、保育内容の打ち合わせが全教職員で行えるようになり、保育内容を共有できるようになった。 ・すみれクラス、たんぽぽクラスの教職員が、年少や年中クラスのフリーとしても動く体制を取れるようにしたため、教職員同士の関係がよりスムーズになり、保育についての話し合いも、より活発になった。
今後の課題	・預かり保育を利用する子どもたちが、年々増えてきているため、保育内容と預かり保育内容とのつながりをスムーズにし、降園するまでの間を、子どもたちが負担なく、そして楽しく過ごせるようにするには、どのようにしたら良いかを、全教職員で考えていく必要がある。
資料	【資料3-1】 幼稚部教育課程 【資料3-2】 3歳児教育課程 【資料3-3】 4歳児教育課程 【資料3-4】 5歳児教育課程
2024年度の取組目標	・令和5(2023)年度から、課外教室が毎日行われるようになったため、日々の保育、預かり保育、課外教室の流れがスムーズになるようにする。また、子どもたちにとって、負担がない内容となるように、保護者とも密に連携を取り、子どもの状態を細やかに把握していくようにする。

3-②	・教育課程の実施に必要な年間の指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教育週数、1日の教育時間が適切に確保されているか。
2023年度の取組目標	・各学年の週案を作成する際の話し合いで、振り返りをしっかり行い、次週に生かしていくなどして、日々の保育内容が、より充実したものとなるようにする。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・各学年で、リーダーを中心にして振り返りをしっかり行い、次週に生かす実践をしていたため、保育内容も、更に充実したものになっていた。 ・必要に応じて、互いの学年の環境も見合うような機会を取ったため、他学年の教職員からのアドバイスをもらって、そのことを生かす姿も多く見られるようになった。

今後の課題	・教育時間以外の預かり保育や課外教室でも過ごすようになる園児が増えてきているため、中には、疲れが見られてきている園児もいる。今後は、教職員同士が可能な限り、その内容やその時の子どもの心身の状況を把握し、保育の中で配慮していく必要がある。
資料	【資料3-5】年間保育日数 【資料3-6】1日の保育時間
2024年度の取組目標	・職員同士で、預かり保育や、課外教室の様子を見学したり、保護者からも話を聞いたりして共有しあい、どの子ども無理なく日々の保育を受けられるように、配慮していく。

3-③	・幼稚園教育要領の内容や学則にのっとり、幼稚部全体として、園児の発達段階に即した指導が適切に行われているか。
2023年度の取組目標	・各学年で週案を提出しあうだけでなく、それをもとに、教職員全体で話し合う時間も取るようにして、幼稚部全体としての指導が適切に行われるようにする。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・どの学年も、学年保育後の掃除の時間など、打ち合わせの時間だけではなく、必要に応じて全教職員が集まって話す機会を意識して作るようにしたため、幼稚部全体の指導が、より適切に行われるようになった。 ・行事などの保護者からの感想でも、良い評価をいただいていることが分かり、教職員の意欲はより高まっていった。
今後の課題	・集団の中で、友だちとは一緒に動けない面を持った、気がかりな子どもが増えてきているため、どのようにその子に合った環境を作り、保育をすれば良いのか、どの教職員も意識して学んでいく必要がある。
2024年度の取組目標	・気がかりな子への配慮や、環境の作り方、言葉かけの仕方などを、研修や書籍などを通して全教職員が学び、共有して指導に当たる。

3-④	・日々の保育において遊具・用具の活用が図られているか。
2023年度の取組目標	・園全体で、保育前と保育後の遊具や用具の点検を確実にを行い、安全に活用できるような体制をとる。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の	・遊具や用具の点検は保育後に行い、必要があれば施設課と連携を取り整備をするよう

理由 (目標に対する取組内容と成果)	にしたため、怪我を未然に防ぎ、安全に活用することが出来た。 ・不備に気づいた教職員は、すぐに全教職員に伝えるということを徹底したことも良かった。
今後の課題	・長い間使用してきた遊具、用具は、安全を考慮して、新たな物に替えていくことなどを計画的に行っていく必要がある。
2024年度の取組目標	・遊具、用具の点検をしっかり行い、新たに購入した方が良いものは、予算を立て、より良いものを選んで購入できるように、担当だけでなく、全教職員で話し合い、決定する機会を作る。

3-⑤	・園行事が適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。
2023年度の取組目標	・コロナ後の行事の在り方を、全教職員で見直し、子どもにとって、更に有意義な行事が行えるようにする。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・安易にコロナ前の行事に戻すのではなく、改めて、行事の内容を見直して実践したことで、より有意義な行事を実施することができた。 ・行事後の保護者の感想においても、子どもの成長が感じられたと、大変良い評価を受けた。
今後の課題	・コロナ禍においては、祖父母の行事への参加は制限していたが、今後は、行事内容を考慮し、祖父母の参加も積極的に進めていく必要がある。
資料	【資料3-7】園行事 【資料3-8】クラス担任
2024年度の取組目標	・幼稚部の教育の良さが、より多くの家庭に知られるよう、祖父母や兄弟姉妹の方も無理なく参加でき、園児と共に楽しめる行事内容を検討する。

3-⑥	・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼小連携など園・学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。また、中・高等部との連携に関する取組がなされているか。
2023年度の取組目標	・併設校との連携した取り組みが、幼稚部にとっても意義あるものとなるように打ち合わせを十分に行い、互いにより良い内容となるようにする。

達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・高等部との触れ合い体験は、これまでのように実施できたが、初等部との交流は、3学期に少し持てただけだった。交流をどうするかについて、互いに話し合う場もあまり持つことはできなかった。
今後の課題	・コロナ前には行っていたことを、改めて見直し、お互いにとって、有意義な交流とするためにはどうしたら良いかを、計画的に話し合っていく必要がある。
資料	【資料3-9】 卒園児進学先 【資料3-10】 併設校との連携
2024年度の取組目標	・高等部との交流に加え、初等部の新部長や次長と共に話し合い、より有意義な初等部との交流ができるようにする。

3-⑦	・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
2023年度の取組目標	・より良い時期に、それぞれの取り組みができるように、早めの打合せを持てるようにしていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・早めの打ち合わせをしたことにより、学生達には、無理なく普段の保育の様子を見学してもらったり、幼稚部のみどり祭などを見学してもらったりすることができたため、保育の実際や子どもの様子を、より楽しく具体的に学ぶことができたようである。 ・見学後の振り返りや感想からも、有意義に学べたことが伺えた。
今後の課題	・もっと幼稚部を見たい、子どもと触れ合いたいなどの感想が多く出ていたため、可能な限り、そのような機会を作っていく。
資料	【資料3-10】 併設校との連携
2024年度の取組目標	・学生達が保育ボランティアとして参加する機会を積極的に作り、子どもたちとの触れ合いが、お互いに有意義なものとなるようにする。

4. 指導

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、園児の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2023年度の 取組目標	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うがい、手洗い、水分補給、活動の後の休憩をとるなどを丁寧に行えるようにし、子どもの体力が消耗しすぎないようにして、感染症を予防をする。 ・日陰の中で活動することや、暑い時間は、室内の活動にするなどの熱中症対策もしっかり行いながら、体力増進のための活動も積極的に計画していく。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園舎外で事故が発生しても職員が対応できるよう、様々な想定の下、緊急時研修を計画・実施する。 ・最新の「学校の新しい生活様式」に則り、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組む。 ・文部科学省の指導の手引きをもとに、保健安全担当及び担任と協力して生命の安全教育を実施する。
達成状況	<p>【幼稚部】</p> <p>A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成</p> <p>【保健センター】</p> <p>A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成</p>
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や保健センターとも連携を取り、しっかり感染症を予防したことで、幼稚部内での感染拡大を阻止することが出来た。 ・メールや園だよりなどを通して、必要に応じて感染症予防を呼び掛けたため、保護者の意識をより高め、協力を得ることができた。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー緊急時対応研修では園庭での発生を想定し、エピペンの扱いに加え担架を用いた搬送方法も取り入れ、役割を分担して対応する流れを確認した。心肺蘇生法・AED講習では消防の指導のもと実践練習を行い、敷地内のAED設置場所とAEDケース内にある付属品も確認した。 ・学校の新しい生活様式に則り、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組んだ。第2類に移行した後も感染対策を継続したことで、園内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大はなかった。 ・文部科学省の指導の手引きをもとに生命の安全教育を実施した。年長児のプール活動開始前にプライベートゾーンの話をしたことで、園児への意識づけができた。
今後の課題	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスだけでなく、幼児の場合は、今後も様々な感染症に罹患する危険はあるため、今後も引き続き注意を払い、感染予防対策をしていく必要がある。

資料	【資料4-6】 学校安全計画 【資料4-7】 危機管理マニュアル
2024年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 日々の気温に合わせて、夏期においては子どもの熱中症対策をしっかり行い、戸外での安全な遊び方を考えるとともに、子どもの活動量が不十分なものとならないように、室内での遊びの内容も工夫していく。

4-③	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2023年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、引き続き防災訓練を実施する。 岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚部独自の避難訓練を8回、岩瀬キャンパス（幼・初）合同の防災訓練を2回実施した。更に防災訓練内で消火器取扱い訓練を行った。合同の訓練では、これまで新型コロナウイルス感染症拡大防止策として各部ごとに避難場所を分けて訓練を行っていたが、初等部と同じ場所への避難を行うよう訓練を実施した。園児に非常時の行動を理解させるため、多くの回数を実施することができた。 保護者対象の行事として、引取訓練を1回行った。 それぞれの訓練において、園児や保護者そして教職員が非常時における安全確保のための基本行動を再確認することが出来た。 岩瀬キャンパス（幼稚部・初等部）全体で防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を実施し、行政機関への報告を行った。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面を想定し併設校各部や総務部、施設管理課、管轄消防署等と相談を行いながら、有事に対応できるような活動を今後も継続する。 中・高等部校舎が総合グラウンド敷地内に移転し、防災管理上の区分は別になったが、岩瀬キャンパス全体として、初等部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。
資料	【資料4-8】 避難訓練実施日
2024年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、引き続き防災訓練を実施する。 岩瀬キャンパス（幼稚部・初等部）全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。

5. 研修・研究

5-①	・全教員による保育研究会を行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に幼稚部全体で取り組んでいるか。
2023年度の取組目標	・すみれクラス、たんぼぼクラス、園児たちとのより良い交流の在り方を探り、園庭を有効に使う。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・週案をもとに、朝の打ち合わせで園庭の使い方を話し合ったことで、より有効な使い方をすることが出来た。 ・未就園児クラスでは、初等部の許可を得て必要に応じて課外教室の横にあるグラウンドを使用した。
今後の課題	・夏期においては、暑さ対策をしながら、どのように戸外での活動を保障していくかは、どのクラスにとっても課題となる。
資料	【資料5-1】研究
2024年度の取組目標	・ウッドデッキや、木陰、学園の森など、天候に応じて、各クラスが有効に使える方法を、全教職員で考え、工夫していく。

5-②	・園内研修・園外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に園内研修・園外研修に参加しているか。
2023年度の取組目標	・各教職員が、教育者としての質を高めるために、園外研修に積極的に参加できるようにし、学んだことを共有しあう時間も工夫して取りあっていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・外部の研修だけでなく、オンラインでの研修にも積極的に参加したことで、各教職員の学びが深まっていった。 ・研修で学んだことを、速やかに報告し、教職員間で共有した。
今後の課題	・教職員が長期休暇を取得した際、他の教職員の負担が増え、研修に十分に参加できなかった。そのような場合には、どのように対処すべきかが課題となった。
資料	【資料5-2】園外研修
2024年度の取組目標	・各教職員が提出した年間の研修計画をもとに、各自の研修には、可能な限り参加できるように、教職員同士で助け合う体制を取っていく。

5-③	・部長（園長）等の管理職が定期的に保育観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
2023年度の 取組目標	・主任となる教員を中心として、各学年がまとまってより良い教育を進めていける体制を取り、必要に応じて、次長と共に適切な指導・助言を行っていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	・必要に応じて次長や部長（園長）が補佐をしていったことで、主任を中心として保育を進めていく体制が、どの学年もしっかり整っていた。 ・特に、行事のときなどは、互いの学年の状況を、その都度報告し、必要な部分を互いに助け合う体制ができた。
今後の課題	・指導が不適切な教員に対する指導に関しては、主任だけでは難しい面があるため、次長、部長（園長）による指導が引き続き必要である。
2024年度の 取組目標	・全教職員が、自分の持てる力を十分に発揮しあえるよう、指導が必要な教職員に対しては、場面に応じて次長、部長（園長）による指導を具体的に行い、支えていくようにする。

6. 保護者・地域社会等との連携

6-①	・保護者が幼稚部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2023年度の 取組目標	・ボランティア活動のより良い在り方を見直した上で、これまでの活動を再開させる。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	・コロナ禍前に行っていた活動を十分に見直したため、スムーズにより良い体制で活動を再開することができた。 ・保護者の負担にならない範囲の活動としたため、楽しみながら、やりがいを持って参加できていた。
今後の課題	・保護者間の関係性に問題が生じることがあった。部長（園長）、次長が十分に気を配り、保護者の活動の様子を見守っていく必要がある。
資料	【資料6-1】保護者会等の活動
2024年度の 取組目標	・新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたため、保護者に、新たな活動をどのように依頼するか、十分に吟味し、負担にならない範囲で参加できるよう体制を整える。

6-②	・園公開を定期的実施しているか。
2023年度の 取組目標	・行事のみならず、園庭開放など、気軽に園に入って頂く機会を積極的に計画し、実践していく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	・可能な限り、園庭開放を金曜日の午後に実施するようになったことが、より多くの方の来園につながった。 ・園庭開放の参加者には、未就園児クラスへの参加や、入園に対しての良いきっかけ作りをすることができた。
今後の課題	・より多くの方が気軽に来園できるように、園庭開放を毎週にするなど、回数を増やす必要がある。
資料	【資料6-2】園公開
2024年度の 取組目標	・園庭開放が、地域の方にとって、より利用しやすいものとなるように、回数や時間、内容などを工夫していく。

6-③	・保護者の幼稚部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
2023年度の取組目標	・どのようなことであっても、保護者の思いや要望には耳を傾け、全教職員でそのことを共有しあって、適切に対応していく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく、次長、部長（園長）も保護者とコミュニケーションを日常的に意識して取るようにしたことで、保護者から遠慮なく悩みや感じていることについて、相談を受けるようになった。その内容を全教職員で共有することも、大切であり、そのようにできた。 ・行事や保護者活動が終了した時には、必ず感想を文章で受け取り、保護者の満足度や要望などを把握することができた。その結果、早い段階で改善していくことができた。
今後の課題	・園バスを利用している保護者との日常的なコミュニケーションが、どうしても希薄になりがちなので、園に集る機会を有効に使っていく必要がある。
資料	【資料6-3】保護者へのアンケート 【資料6-4】保護者全体会・懇談会・個人面談
2024年度の取組目標	・全員の保護者と話すことのできる機会（誕生会や、保育参加の後の部長（園長）との懇談会など）を有意義にするために、日時や懇談会の持ち方などを工夫して行うようにする。

6-④	・園便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
2023年度の取組目標	・本年度から導入の「コドモン」を有効に使い、確認のチェックをしながら、情報が正しく伝わるように流していく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が園バスの運行情報を得たり、欠席連絡などをしたりするのに、「コドモン」は、大変好評で、よく利用されていた。 ・教職員たちにとっても、電話が集中してかかってくる時間が無くなり、確実にチェックもしやすくなったため、「コドモン」を導入したことは、大変良かった。
今後の課題	・「コドモン」で、緊急に流した内容を見ていない保護者に対しては、電話をかけるなど

	の対応も必要になってくるため、できるだけ早めに配信することや、必ずチェックしてもらうよう、更に呼び掛けていく必要がある。
資料	【資料6-5】保護者への情報発信
2024年度の取組目標	・保護者への連絡は、可能な限り早めに配信することや、保護者が働いている場合の連絡先などの情報は、全教職員が把握しておき、誰でもが速やかに連絡できる体制をつくる。

6-⑤	・預かり保育の受入れ体制が十分に整っていると同時に、預かり保育の実施について、幼稚園の目的、教育課程との関連、園児の負担、家庭との連携等への配慮が適切になされているか。
2023年度の取組目標	・預かり保育と習い事教室の子ども様子を担当同士で伝え合い、どちらの時間も、子どもにとって、有意義な時間となるようにする。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	・該当する子どもたちの、預かり保育と習い事教室間の行き来を次長が担うようにしたことで、預かり保育の担当が不安なく預かり保育を進めていくことができ。 ・子どもの疲れ具合や状況を、教職員同士で丁寧に情報共有し、保護者にも伝えるようにした。その結果、保護者の預かり保育や習い事教室に対する信頼度が、より上がった。
今後の課題	・預かり保育を利用する保護者が、今後も増えていくことが予想されるため、預かり保育の教職員体制を、しっかり整えていく必要がある。
資料	【資料6-6】預かり保育参加者数
2024年度の取組目標	・預かり保育が、子どもたちにとってより安心して過ごせる時間や場所となるよう、担当する教職員の人数も含め、保育内容などを教職員で検討し、より良いものにしていく。

6-⑥	・保護者の実情や要望による子育ての支援活動が適切に実施されているか。
2023年度の取組目標	・保護者と話をする場や時間を意識的に作り、積極的に教員から話しかけていくように、全教員が心掛ける。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成

達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の心配も少なくなってきたことで、保育参加や誕生会の後などの部長（園長）との懇談会では、保護者とゆっくりコミュニケーションをとるよう心がけた。このような時間があったことで、保護者からいろいろな子育ての悩みを相談されるようになり、保護者の不安を解消する助けになれた。 ・担任の教員達も、懇談の時間だけではなく、意識して普段から保護者に声をかけるようにしていたため、保護者から気軽に話しかけられる姿がよく見られるようになった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・園バスを利用している保護者の方とは、なかなか自由にコミュニケーションをとる機会がないため、どのようにその時間を作っていくかが課題である。
資料	【資料6-7】 たんぽぽクラス・すみれクラス在籍者数
2024年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部長（園長）との懇談会では、日頃話す機会が少ない保護者との時間を多く取るなどの工夫をし、懇談会がすべての保護者にとって有意義なものとなるように計画する。

6-⑦	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2023年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も、子どもの興味がより広がるように、近隣に出かける機会を積極的に作っていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が長期休暇を取得していたことや、年少クラスに子どもたち例年よりサポートが必要な子どもが多かったことなどが要因で、近隣に出かける時に補助の職員を配置することが難しく、実施できないことが多かった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者ボランティアの方の手を借りるなど、今後は実施方法を検討していく必要がある。
資料	【資料6-8】 地域との連携・交流
2024年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者ボランティアのみならず、学生ボランティアの手を借りるなどして、地域の環境や教育資源を活用する手立てを考えていく。

7. 経営基盤

7-①	・部長（園長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
2023年度の取組目標	・次長が、教職員からより信頼されていくように、次長の立場を、これまでよりも強くし、力を発揮してもらう。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	・次長は事務的な仕事に限らず、必要に応じて保育の補助も行なったため、担任の教職員達からも頼りにされ、子どもたちに関する相談をされることが多くなった。
今後の課題	・保育中に次長としての事務は全く行なえず、保護者対応も、ほぼ行えない状況であった。その点を、どのようにカバーしていくかが、今後の課題である。
2024年度の取組目標	・部長（園長）、次長の動きや仕事内容を、お互いにどのように分担していくのが良いかを、その都度話し合いながら、適切に進めていくようにする。

7-②	・園務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が園運営において有効に機能しているか。
2023年度の取組目標	・みんなで助け合うことの大切さと必要性を、引き続き次長と共に行動で示していくとともに、互いに協力しあう温かい雰囲気を、全教職員で作っていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	・次長が保育に参加するようになったことで、担任の教職員達からは、より必要とされるようになり、子どもに関する相談をされることが多くなった。 ・各学年の保育状況を、部長（園長）と次長が共に把握し、助けが必要と判断した際には、どのようにしたら良いかを、教職員達と遠慮なく話し合えるようにした。その結果、教職員全体で助け合う雰囲気が、より高まってきた。
今後の課題	・長期休暇を取得した教職員の人員補充が行われなかったため、全教職員で補いあったが、様々な面で負担を感じるが多かった。
資料	【資料7-1】園務分掌 【資料7-2】委員会・会議
2024年度の取組目標	・全教職員の健康状態を、部長（園長）と次長が共に把握し、無理せず保育を進めていくことができるように見守り、支えていく。 ・各教職員に自身の健康管理をしっかり行うよう促す。

7-③	・各種文書や個人情報などの幼稚部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。
2023年度の取組目標	・全教職員に、個人情報をしっかり管理するという意識を持ってもらうよう、必要に応じて、部長（園長）と次長が共に指導する。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	・部長（園長）が次長と共に、必要に応じて具体的にどのように管理するかを指導したため、問題なく達成することができた。 ・ホームページへの掲載、クラス便りの発行、メールの送信などの際は、部長（園長）が次長と共に、常に最終確認をしたため、特に問題はなかった。
今後の課題	・保護者にも、他の園児の情報はネットには流さないなどのルールを、より厳しく守ってもらう必要がある。
2024年度の取組目標	・行事やボランティア活動などで得た幼稚部の情報を許可なく流すことや、他の園児の写真掲載は絶対にしないなどのルールを、保護者にも再確認し、きちんと守ってもらうようにする。

7-④	・保育内容・生活環境などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
2023年度の取組目標	・改修をした施設・設備の活用の仕方を、全教職員で考え、保育に生かしていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	・改修した施設の使い方を、全教職員で考え、不都合が生じた時には、その都度、話し合っ改善するようにしたため、保育の中に十分生かす使い方ができた。 ・保護者からも、改修した後の施設、設備の使い方が良くなったと、大変好評だった。
今後の課題	・施設、設備の面でも、夏期においては、暑さ対策をどのようにしていくかが今後の課題である。
資料	【資料7-3】施設・設備
2024年度の取組目標	・夏期においては、暑さの中でも子どもが無理なく活動できる施設、設備を、施設課の方や保健センターの職員にも相談して考え、適切な保育環境を作っていく。

7-⑤	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
2023年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。 業者委託業務による計画的な環境整備。 設備機器、照明などの計画的な更新。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> 年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 職員の日常作業の他、消防設備、清掃業務、樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等を行った。 改修工事において、工事エリアを仮囲いで区画し、園児の安全を確保した。 カトリア館保育室、プレイルーム、廊下等の照明器具LED化工事を行った。 ひまわり館において、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に基づき、空調機の法定点検を行った。 新グラウンド駐車場において、安全管理のため監視カメラ設置工事を行った。 空調設備など設備機器の経年劣化による不具合への対応を行った。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 委託業務の内容を実情と比較し見直しを図る。 令和5(2023)年2月のカトリア館改修内容を踏まえて、引き続き設備機器・照明器具などの更新を計画的に進める必要がある。
2024年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。 業者委託業務による計画的な環境整備。 設備機器、照明器具LED化などの計画的な更新。

7-⑥	・遊具・用具・図書等の整備や園教育の情報化が適切になされているか。
2023年度の 取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和5(2023)年から導入する教育施設向けICTサービス、「コドモン」を、全教職員で適切に使いこなし、園運営に活かしていく。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対	<ul style="list-style-type: none"> 朝の欠席確認や、園バスの利用の有無などの確認を全教職員でチェックできるようにしたため、保育活動の中に適切に活かすことができた。 緊急の連絡にも活用できたため、保護者にも好評だった。

する取組内容と成果)	
今後の課題	・共働き世帯であると、「コドモン」をすぐには確認できない場合があるため、その点が課題となる。
資料	【資料7-4】教材・教具・遊具 【資料7-5】図書蔵書数
2024年度の取組目標	・共働き世帯の保護者と、「コドモン」以外にも連絡を取れるような方法を考え、どの教職員でも連絡がスムーズに取れるようにしていく。

7-⑦	・幼稚部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2023年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 ・幼児教育無償化事業を含めた校納金の収納業務を支障なく行う。 ・通園バスの運行について、安全かつ正確に行われるよう対応を行う。
達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者対応や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・教材教具補助金等の幼稚部関連補助金の申請事務を本年度から支援室で行うこととなり事務負担が増加したが、関係部署と協力し適正に処理を行っている。 ・幼児教育の無償化給付についても、保護者の居住市町村ごとに事務処理を行うため煩雑さが否めないが適正に処理を行っている。 ・通園バスに対する車内置き去り防止装置の設置対応を行った。運行ルートや駐車場所の見直しを随時行っているが、安全面についても今後も継続して意識を高めたい。ICTサービス「コドモン」の運用を令和5(2023)年から幼稚部で開始しているが、運行中のバスの位置情報を保護者に的確に伝える重要なツールとなっている。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・幼児教育無償化事業や幼稚部関連補助金申請を含めた会計処理全般について、引き続き支障なく行われる様尽力したい。 ・通園バスの運行については、登降園や遠足の送迎、大船キャンパス等への移動手段として利用の機会を増やしているが、更なるバスの有効活用を検討する。
資料	【資料7-6】保育料等校納金 【資料7-7】園児一人当たり年間納付金
2024年度の取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務における事務支援体制全体の強化を、引き続き図る。 ・幼児教育無償化事業を含めた校納金の収納業務や幼稚部関連補助金事務を支障なく行う。 ・通園バスの運行について、安全かつ正確に行われる様対応を行う。

8. 自己点検・評価

8-①	・自己点検・評価が年に1回以上定期的に実施され、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な園運営の改善に活用されているか。
2023年度の 取組目標	・全教職員に、自分の持てる力を精一杯発揮してもらい、幼稚部の運営が、よりスムーズに進んでいくよう、教職員の協力体制を強化する。
達成状況	A：十分達成 <input checked="" type="checkbox"/> B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	・指導が必要な教職員には、その都度、具体的に改善点を示すようにしたことで、以前よりも、自分の持てる力を発揮してくれるようになった。 ・また、本人が努力していることを、皆の前でも評価するようにしたことで、教職員の協力体制がより強くなった。
今後の課題	・指導が必要な教職員は、まだまだ不十分な面があるため、今後も見守り、支えていく必要がある。
2024年度の 取組目標	・自身の長所は思う存分発揮し、改善点については、助言を受け入れやすくなるよう、それぞれの教職員と関係を構築していく。部長（園長）と次長が共に指導方法を工夫していく。